

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693000081		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社 京都支店		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム今里(なでしこ)		
所在地	〒617-0814 京都府長岡京市今里畔町21-1		
自己評価作成日	平成24年3月16日	評価結果市町村受理日	平成24年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・良質なケアスタッフ育成に向けての積極的な取組 ・全社的にセンター方式を取り入れ、充実したケアプラン作成を目指している
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2693000081&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年4月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設から1年が経過した当該ホームは、管理者のリーダーシップの下、職員の育成に力を入れると共に、現職員の思いを取り入れた理念の見直しなど、様々な課題を挙げて体制作りに取り組んでいます。職員は利用者と家族の関係や繋がりを大切に支援し、自宅への外出や外泊やホームと一緒に食事の時間を作ったり、家族の協力を得て受診や買い物などに行っています。職員は利用者の時間の流れに合わせた支援を心がけ、日々の暮らしの中で利用者が役割を持って生活ができるよう支援しています。フラダンスやヨガなどの地域のボランティアの来訪や散歩時に挨拶を交わす地域の方も徐々に増え、今後更に小中学校への働きかけを考えるなど地域との交流に積極的に取り組んでいます。職員は利用者の思いに寄り沿い、利用者が地域と繋がりがりながら自由な暮らしを提供できるよう支援しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は開所時、職員全員の意見により掲げたものであるため、その意味については全員が理解した上で、日々のケアに取り込んでいる。	開設時に職員間で話し合っけて掲げた理念を研修時などに分かり易く伝えたり、理念を基に掲げた年度計画に沿って日々支援し、実践に繋がるよう取り組んでいます。職員の交代があり、現在の職員の思いを取り入れた理念を掲げるために、職員間で話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近隣での買い物や散歩の機会に、地域住民との交流をより多く持てるよう心掛け実行している。	散歩や買い物の際に挨拶を交わす顔見知りが増えています。ホームの納涼祭は地域の方の参加を得て開催したり、ヨガや落語、フラダンスなどのボランティアの来訪があり交流しています。今後は地域の情報を得ながら地域の夏祭りなどへの参加や小中学校との交流なども行っていきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの納涼祭には地域の方々の参加もあり、認知症の方々についての理解や支援をより深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族が全員参加する推進会議を毎年開催し、ホームの取組状況等の説明を行うと共に意見交換も交わしている。	会議は家族代表や市担当者、地域住民代表などの参加を得て2ヶ月毎に開催しています。運営状況の報告やホームの便りの説明などを行って情報交換し、有意義な会議となっています。参加者からは食事についてや個別での買い物希望など様々な意見が活発に出されており、改善や行事に取り入れるなど、サービスに反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村で開催される研修会・講習会等に積極的に参加している。担当者の方々には運営推進会議、家族交流会にも参加してもらっている。	運営推進会議、家族交流会などに市担当者の参加を得ており、家族交流会では共に食事を摂ってもらったりホームの様子を見てもらっています。グループホーム連絡会に参加したり、日頃からホームに対する理解や支援を得られるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームにおいては日中施錠は行っておらず、常に面会者の出入りは自由である。設立より現在に至るまで身体拘束の例はなく、職員全員が禁止行為である事も熟知している。	職員は入職時研修の際や身体拘束に関する法人研修に参加して理解を深めると共に、事業所独自にも研修の実施を予定しています。玄関は夜間以外は施錠を行わず、利用者は一人で日課の散歩に出かけたり、1階、2階フロアを自由に行き来するなど利用者の自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については、全ての職員が理解しており、常に入居者を取り巻く人間関係も注視している。		

長岡京ケアハートガーデン グループホーム今里(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある場合には支援可能な状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前見学、説明等における十分な理解、納得後の契約締結を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の方々からの要望、意見等は出来得る限り運営に反映させるよう努めている。	日頃から家族の面会が多く日常の様子を伝える際に意見や要望が無いか聞くと共に、家族交流会や運営推進会議時などにも聞いています。個別の買い物などの希望があり、買い物ツアーとして企画に取り入れるなど、出された意見は検討の上サービスに反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にリーダー会議、各フロアのユニット会議を実施しており職員全員の意見や提案、気づき等も十分に検討した後運営に反映させている。	月1回のリーダー会議やフロア会議などで職員の意見を聞いています。利用者毎のアルバムの作成やガレージにベンチを設置するなど、利用者に関する意見や業務についての様々な意見が出されており、職員間で話し合い反映するよう取り組んでいます。また、課長と施設長が全職員対象にヒアリングを予定しており現場の意見を聞くよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回個人別評価、個人ヒアリングの機会を設定しており、各自の意見等を吸い上げ働きやすい環境作りに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社研修、支店研修への参加は基より、外部研修においても積極的に受講できるよう勤務状況の調整を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所連絡会に参加し、地域包括支援センター、グループホームとの交流、意見交換の機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のホーム見学、本人面談時に十分なコミュニケーションの機会を設け、ホーム入所における理解を得られる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時、ホーム見学、説明と共に家族からの入所に対しての心情等時間をかけてのヒアリングに努め、双方の信頼関係の構築を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所面談時においてまず、本人・家族の意見、相談、入所にいたる経路、現在の状況、悩み等を十分に傾聴した上で支援の方向付けを行う様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者各自の嗜好や得意分野(料理・掃除・読書・折り紙等)を考慮したうえで職員と協働しながら共に支えあえる関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族間との意見交換、コミュニケーションは日常的に行われている。(面会時等) 催し事、レクリエーション、外出等にもできる限りの協力をお願いしつつ、支援のあり方においても共に支えあえる関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のこれまでの人間関係が良好に継続可能でいる様に友人、知人の方々にも気軽に来所してもらっています。	ホームでは家族と過ごす時間を大切に支援しており、家族の協力を得て行きつけの美容院や墓参り、馴染みの店での買い物やかかりつけ医の受診、外食や外泊などを支援しています。入居前の施設職員と利用者がホームに会いに来られたり、以前よく行かれていた公園に散歩に出掛けるなどの支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各個人の個性、人格を尊重しつつ、同じホームの住人同士、互いに協力し支え合いながら良好な人間関係が保てる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所の催し時のDM発送等などの関係性の維持に努めながら、契約終了後も必要な相談は受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、家族共に日常のやり取りの中からも暮らし方、要望等を把握しえる様心掛けている。 そして、できうる限り意向に沿った支援が展開出来るよう検討した後実践している。	ユニット会議で利用者一人ひとりの日頃の様子などの情報を職員間で共有し、利用者本位に話し合い、思いが把握できるよう努めています。センター方式について全職員で学び始めており、利用者の情報を再度家族から聞いたり、日々の様子を記録に残すなど、アセスメントの充実に向け取り組み始め、思いを把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各自の生活歴、馴染みの暮らし方等の情報収集においては、本人は基より家族、関係者等多方面の方々よりの意見を傾聴し日常の支援に反映させる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定や定期的な体重測定の実施により健康状態に留意した上での個人意思、個性を尊重したライフスタイルの確立を目指している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	設定期間経過後の見直しは基より、本人、家族、主治医、からの意見、要望に加えサービス担当者会議よりの気づき等も反映させた計画の作成に努めている。	利用者、家族の意向を取り入れた介護計画を作成し、ユニット会議で介護計画の見直しの必要性について職員間で話し合い、6ヶ月ごとに見直しています。日々の記録や家族、主治医の意見、必要時看護サマリーなどを参考に計画に反映させています。新人職員が多く、勉強会を開き学んでおり、体制を整えば定期的なモニタリングの実施へ繋がられるよう取り組んでいます。	定期的なモニタリングが十分に実施できておらず、ユニット会議で職員間で意見を出し合い、介護計画を見直しています。利用者の現状に即した介護計画の見直しのために、定期的なモニタリングの実施が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートの記入と朝、夕の申し送りの実施。 各ユニットの申し送りノート活用による情報共有の徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携加算、在宅療養管理指導、訪問看護等健康管理の面においても医療活用の強化を図っている。		

長岡京ケアハートガーデン グループホーム今里(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の消防訓練の実施。 コンサート、お稽古事を通じて地域の住民ボランティアの方々との交流の機会をもっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自、それぞれに馴染みのかかりつけ医の往診、受診等による日常の健康管理の基、必要に応じては家族の理解、協力による検査等のための受診も支援している。*在宅療養安心システムへの登録も支援中	歯科などの専門医も含めて、馴染みのかかりつけ医を継続してもらっています。受診は家族が対応し、受診時の情報は家族を通したり、電話で主治医とやり取りをすることもあります。利用者によっては受診や往診を組み合わせるなど個々の状況や希望に沿って支援しています。緊急時は家族に連絡したり主治医の指示を仰いで対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが、看護職員を配置しており、日々の管理と療養手帳によるかかりつけ医との連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の確立により病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約書に『重度化した場合の対応に関する指針』も資料として添付しており、家族間との今後の方針についての意見の共有も行っている。	契約時に看取りの指針に基づいて、医療度が高くなると対応が難しい事や主治医や家族の協力の下に対応していくことなどを説明しています。特殊浴槽の設備が整っていますが、比較的元気な利用者が多く、職員は研修に参加して介護方法を身につけるなど、重度化された場合には意向に沿って支援できるよう体制作りに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急対応、危機管理についての研修を実施 *緊急対応チャートあり		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度においては、昼間の設定2回、夜間設定1回の避難訓練を消防署の協力を得て実施済み。 近隣への災害時の協力依頼も開設時に行っている。	消防署の指導の下、年2回昼間想定で避難訓練を行い、ホーム独自にも夜間想定で訓練を行っています。消火器を使った初期消火や避難経路の確認などを行っています。ホーム開設時に、災害時に協力が得られるよう近隣住民に挨拶を兼ねて協力を依頼し、今後再度働きかけていきたいと考えられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新入職者研修において個人情報保護法の理解を深め秘密保持の徹底を図っている。 接客接客についても研修内容に組み込まれており学び熟知している。	職員は法人の接遇マナー研修を受講し、社会人としての基本マナーを学んでいます。挨拶や言葉使いは社会人として相応しい適切な言葉使となるよう気を付けています。職員に不適切な対応があれば職員会議などで改善に向けて話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各個人の要望や想いを十分に傾聴し、自己決定を促し生活や支援のあり方に活用している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体がそれぞれの方がその人らしい生活をマイペースで穏やかに過ごしてもらえる様に考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問美容での毛染め、カット、顔剃りや衣類、化粧品等の購入においても支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるバランスの良い食事を提供できるように献立は栄養士が作成している。 調理、盛り付け、片付けは共に行いおやつに関しては手作りの物を提供出来るよう努めている。	食材は法人の栄養士が立てた献立に合わせて業者から届けられ、ランチョンマットの用意や調理、盛り付けなどを一緒に行っています。利用者の好みに合わせた味付けや時には献立をアレンジしたり、食べられない物は代替えを品を提供しています。巻きずしなどの行事食を一緒に作ったり、月数回出前を取り、また、回転寿しなどの外食にも行き楽しんでもらっています。職員は利用者と一緒にテーブルに着き、談笑しながら共に食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な体重測定の実施。 食事量の調整(個人)、水分摂取量、排尿、排便等も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。		

長岡京ケアハートガーデン グループホーム今里(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に応じた排泄介助・誘導を心掛け、声掛けや見守りも十分に配慮して実施している。	夜間オムツを使用している方も日中はトイレで排泄できるよう支援し、トイレの声掛けや誘導が必要な方は個々のリズムや状態に合わせた支援に努めています。オムツフィットコーディネーターの助言を得ながら利用者に合う物を選び、利用者自身でできる事は行ってもらい、現状が維持できるよう工夫しながら支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・適度な運動 ・十分な水分補給 ・バランスの良い ・日々の排便チェック 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、曜日設定はあるが時間的には、ゆとりを持っておりその日の希望の方へは対応している。	入浴は午前、午後共に準備し、週3回を目途に一人ずつ湯を入れ替えて、ゆっくり気持ち良く入ってもらっています。毛染めに合わせ入浴する利用者もあり、その時々希望に合わせて支援しています。入浴を拒む方は利用者の気持ちに向き合い、次の日に変更するなど柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間共に個人のペースにまかせて、日中においても自由に休息したり、昼寝できるよう様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医との直接のやり取りでの、内服薬の理解とお薬リストでの確認。療養手帳での症状についての情報の共有。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活における役割の確立や、ディスプレイ制作への参加、趣味(習字、俳句、読書)に対してできるだけ支援できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の天気、入居者の体調に充分配慮した上で散歩、買い物に出かけている。年間行事としては外食、花見、コンサート、初詣等、外出の頻度を考慮した計画を心掛けている。	天候が良ければ利用者の希望に合わせて毎日買い物や近隣の田んぼ、花畑などへ散歩に出かけています。弁当を持って花見へ行ったり、家族の協力も得ながら、できるだけ外出できるよう支援しています。季節に合わせた外出や希望を募った買い物ツアーなどを企画しており、利用者が外出の機会を持てるよう取り組んでいます。	

長岡京ケアハートガーデン グループホーム今里(なでしこ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、基本的に立て替え制にしているため入居者が現金で買い物をする設定は現在ありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各ユニットに固定電話が設置してあるため、基本的に利用は自由である。要望あれば、代理も受けている*携帯電話で自由に外部との連絡を取り合っている方もいます。郵便物、小包等の受け渡しも必要に応じた支援を実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を意識したディスプレイをホーム内に絶やさず食事時には音楽を流すなどして心地良い空間作りを心掛けている。	窓が多く明るいリビングは利用者の毛筆の書を壁に飾ったり、生花や観葉植物を置き、季節のイベントに合わせた飾りつけなども行い、季節を感じられるようにも配慮しています。テレビの前にソファを配置して気の合った利用者同士が雑談しながら寛げるよう空間作りを行い、居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファではTVを観たり、読書をしたり、テーブル席では思い々に談話や制作活動、書き物等共有空間については、自由に使用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はカーテン、照明、エアコン以外はすべて自宅にて使用していた馴染みのある物をホームに持ち込み使用してもらうことで環境の変化における不安感を最小限に留められる様配慮している。	居室には使い慣れた古いミシンや机、小タンス、カーペットを敷いて炬燵を置いたり、大切な仏壇を持参されるなど、家族と話し合いながら自宅に近い部屋作りがなされています。居室で編み物をされる方やCDを聴く方、職員が見守りながらミシンを使う方がおられるなど、思い思いに居心地良く落ち着いて過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	敷地、建物はバリアフリー仕様である。毎日の献立表の掲示により自立支援を促している。		